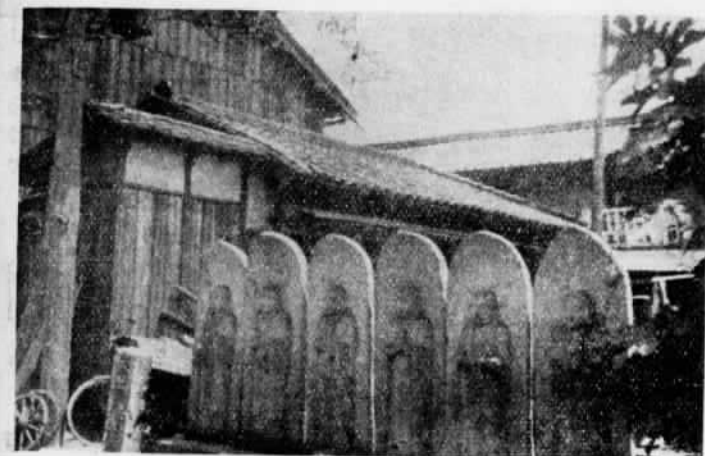


南濱墓地に建てる六地藏 (船本撮影)



南濱の墓地 梅原忠治郎

大阪七墓の一つで、大阪の北郊、菜花樓々とした野面の中にあつた俗に「濱の墓」と稱した、南濱の墓地は現時東淀川區南濱町二丁目の人衆稠密した邊りに可なり廣い地域をそのまゝ殘影が歴然として居る。

阪神北大阪線の南濱停留所からすぐ半町ばかり北の通り筋から東側に「行基菩薩開基南濱墓所」とした碑のある「道引之地蔵」を安置する新しい地藏堂の背後がその墓域内である。

抑も此南濱の墓地は行基の初めた三昧火杭で、當時行基は土、木、石の三佛を作つて安置した本邦火葬所の嚆矢で、その僕六助と長兵衛の二人に火葬の取扱を爲さしめた。後に此二人は、東坊と西坊とに別れて、代々此ことを扱ふたと傳へらる。昔は六反六畝歩と云ふ境域に累々として建て列んだ墓地も、今は見渡した所千坪ばかりに縮少した内に可なり整然と列んである。

先づ正面に十列ばかりも南北に長く駢列し、北方には四つ迄も無縁墓が重層して立つてある。更に地藏堂の背後に當る西南隅三十坪ばかりの地にも多くの墓がある。その境界には、無縁にも無縁の墓石で周圍の垣を作り、中央に芭蕉を植えてある。この廣い墓域の四周は古い家が見苦しく背面を曝け出してゐる。

一丈ばかりもある供養塔の板碑に頗る摩滅はすれど牛肉彫の地藏尊は、可なり古代色を帯びて立つてある。尙一つの塔の板碑と「やくわん屋町むんかう」の建てた供養碑は、第一に好事家の眼を惹く。

無縁精霊
一切合殿
佛果菩薩
享保九甲辰三月
(此所の字句不明)

延寶二甲寅年七月七日

菅原朝臣功長翁命墓

あるは「菅原家」のものは頗る多い。此等は天滿宮前司滋岡氏の祖で、祝部宮内少輔寺井種久の碑と、萬治三年仲春に玄壽寺井種定の建てた、大藏少輔吉種の碑、及びその妻島氏の碑などもある。此他に天滿宮祠宮「中大臣」姓大道長門元繼以下歴代の墓石や、同じく滋岡家果代のものもある。

尙又「鶴壽尼」とか「白樂院」とか「永壽院」とか刻つた墓が此附近にある。

此北の方に細く高い花崗石で、
佐々木志頭磨専林先生塔碑並叙

がある。此碑は、寛保三年龍集癸亥仲秋十四日に、門人梅溪川鶴九草の謹撰したるものである。佐々木志頭磨は京都の人で、有名な書家、佐々木志津磨専念の子であつて、名は春、字は専林、通稱は志頭磨、號を松竹堂と云ふ、寛保元年八月十四日、年五十六にして歿す。嗣を正林と云ふ。

此墓の西、表の列には
猪名川政右衛門
旭譽圓月岳映禪定門
寛政十二庚申歲十月九日

藤島
門弟
(裏面)
二代目 猪名川政右衛門
三代目 藤島政右衛門

外に、山口丹波守源直清墓もある。
扱尙も珍しい名のある墓もやと、中央の墓原を東へ東へ巡りつ

此等は第一列にあるので、次に以下順につくまゝに列挙しや

富島瑞峯林品之墓

「享保十九年甲寅三月吉日、孝孫富島喜内寄、長胤拜立」のもので、瑞峯の家は世々西成郡三番村の人で、村吏として嘉名があつた。松花堂の流を汲む書家で、名林品、字瑞峯、號友雪、通稱は左近右衛門、正徳元年辛卯三月十三日歿、年八十一とその碑文によつて要を誌す。

此墓のすぐ右についで、

富島祥巖元喜居士墓

享保七壬寅年九月六日卒 行年七十有八
富島月窓了光居士之墓

天明二癸卯年八月十日卒 行年六十有六

九代 富島密貞

心叟智傳居士 文化六己巳年八月廿一日
富室梅香大姉 文化三丙寅年六月二日

こうした富島一家の墓が、その一列前後二帯に凡そ二十基ばかりもあつたので、之位で止める。
次に眼についたのは

從四位下刑部少輔菅原至長朝臣

延寶六戊午年四月廿二日

從五位上行中務少輔菅原朝臣長祇之墓

南濱の墓地

、東塀際の大樹の下にと來かゝる。「輝寶龍王」とした白い長い旗の立つた小祠がある。此邊り桃樹の下に、大鹽一家の墓石があつた筈が今はなく、既に西南隅準無縁墓地に遷せられた地域の而も西北隅塀際二基目に移つてある。

(向西面正) 春岳院清空 本覺院不二日性 耀山院誠意日涼 覺信院秀雄 墓

(面側左) 春 寛延二年三月廿九日 本 安永二年六月廿六日 翅 文政元年六月朔日 覺 文化二年十二月十五日

(文碑面背) 嗚呼歲月久舊碑摧壞盡矣其文字不可少概見也余竊恐子孫不認先學之所在乃換舊以新次叙各厥諡號而刻爾焉其春岳我高祖父喜内本覺其弟助左衛門耀山我祖父政之亦覺信我叔父養子石川氏晋次郎也

尙之に續いて、その南には 大鹽平八郎誌且建 文政元歲次戊寅秋七月

享保元辛酉年 新寂林道信士 九月二十二日

大鹽政之承建之

此南に左の三つが相次いで建つ。

○ 佐州一宮妙照寺廿五祖日蓮聖人 土葬

〔中 略〕 燒死人 貳百九十三人 内男百四十三人 女百二人 男女難見分死骸四十八人

〔中 略〕

北は長柄村へ飛火して、國分寺燒失、其他近在へ飛火有之。

〔以下 略〕

扱此碑に續いて建てるものゝ中に、有名なる儒者龍田善達之墓がある。

龍田善達甫墓

攝有一隱士姓龍田名在寛字善達産于播州加東縣山國邑夙耽墳素向壯遊學于京師信吾先人之道親及于中島浮山子既而寓于攝州大坂橫經授徒者二十餘年著錄殆以千數天性怡易能耐艱苦棲遲衡門不凝榮利人以此稱之京師戊子之災萬室煨燼隱士亦遭燬羸服間行予遇諸塗勸寄予宅而不宜前年聞予到攝而速來訪則道舊而不措何圖宿昔門人早瀨某來計曰今茲六月廿三日嬰疾而不祿享年五十八一丈夫子甫六歲一女三歲無人主後事門生若干人合謀經紀將代玄珉以傳姓名諸爲之誌乃題其墓曰龍田善達甫墓云享保十九年甲寅歲也

享保五庚子年八月九日

火葬所として設けられた此墓地に特に「土葬」と誌してあるのは妙だ。

○ 何の木や我と焼らむ冬木立 陸恩 句碑か墓表か判別し難い。

○ 五十回忌追善塔 大坂三郷大火 燒死水死精靈

(背 面) 明和九壬辰年建之

彼の明和九(めいわく)の年とて大災害のあつた年に、その五十年前、即ち享保九年の大坂三郷大火に横死したものの追善塔を建てたと頗る奇態で、こんな碑石のある事は、大阪市民として知つておくべきである。

享保九甲年辰 三月廿一日 大坂大火

南堀江橋通三丁目金屋喜兵衛祖母妙智尼宅より午上刻出火翌十二日午之刻に火鐘る。西は阿彌陀池和光寺門前筋、突喰屋橋東側裏限り、夫より長へやけ、江戸堀一丁目南側迄、夫より中の島東の方へ天満不殘、上町は谷町邊まで、南は高津道頓堀千日前東側迄燒る。

町數四百八丁 家數壹萬千七百六十五軒 竈數六萬貳百九拾貳軒 土藏千九十七ヶ所 濱納屋千五百四十四軒 公儀橋九ヶ所 町橋四十五ヶ所

京 兆 伊藤長胤 子 孝教建 受業門人 若干 助刻

尙その右端には、「仁孝、誠敬、感動、鬼神」と四面上部に割刻し、その先考善右衛門、妣清、名密姓鳥居、處女名波、八歳の三人の爲に、龍田善達が誌し且つ建てたる碑石がある。扱その東の配列の墓石中、第一に眼につくものはその北端にあるもので。

冬霜圓覺禪定門 八ッ橋墓

寛政五癸丑年建之 施主 朝嵐喜八 此南につゞいては

涼岳淨晴信士 側) 六三郎 おべん 法林清閑信女 (面) おとよ 喜助

執行主計大伴忠尙墓 文化九年

有鄰院孤峯紹徳居士

此等は唯何の墓表だか誌すばかり。

位牌形 砂岩

鑿江齋藤先生墓 高三尺三寸二分 石蓋を戴く 幅一尺三寸一分 厚一尺一寸一分

墓碣銘

丹後 野田逸撰 浪華 篠崎弼題表

銘曰、
良劍云藏 著書云成 劍則入道 書則先生
疑義錯節 迎刃以解 嗚呼書乎 其之劍矣
嘉永元年戊申復月 門人浪華 和田孝榮書

齋藤鑿江は有名なる儒者で、阿波徳島の人、年二十五にして東都に至りて昌平校に入る、兄の計の爲家債三千を負ふて十餘年にして悉く償ふ。大阪に出て儒を業とした。名は象、字は世教、通稱は五郎、鑿江は其號である。嘉永元年八月十三日歿、年六十四此墓のすぐ南に、書家山本大定の墓がある。

大定先生之墓

此墓は上月専庵の撰文に成り、元文丁巳冬十一月、門人七名が監事となりて建てたるものである。

山本大定は、攝津菟原郡山路壯五百崎の人で、山本實徳齋先生の弟である。名は命常、字大定、通稱十藏、號文龍と云ふ。元文二年八月二十一日年五十二で歿した。東列の北端に、

人見友竹墓

孝子……

享保辛丑六歳二月十日

知足庵陸胤日浩

人見氏

天明九酉年正月十九日

又その南端の五輪塔や、

釋 妙想 安永五未年十二月十九日
俗名 小犬

くらはしや
長右衛門

天保八丁酉年十二月二十八日 行年五十七歳

出雲守 姓姉

辨 女 墓

出雲守從五位下藤原朝臣清命

などは眼についた。

その次の東の層には、「北岡道治之墓」「龍王山清吉之墓」「南

陽院眞翁居士」「肥州宮崎源吉」

吉田清兵衛清行

寛政六甲寅歲
三月四日卒

などである。

最東端のものには

無縁 漂死之墓

俗 筆 伊 墓

などが眼立つ。有名な「北岡治郎左衛門正治之墓」(少年畫家)「浅水宣珍墓」「浅水周備室由紀女之墓」の外に「温静之墓」があつた。

温静名十行稱義兵衛姪吉崎氏攝州西成縣本庄村之産也性温順而孝謹以有奉焉嘗過以月肅殺之感至慕親之音容而賦和歌可知念々不忘而思其親也無有暇則讀書不廢以爲娛

寶曆甲戌五月

此墓域を出でて北へ一町ばかりの町角を少し東に入れば、北側

南 濱 の 墓 地

追 善

(右側) 來る春を見勢す
ちらせし嵐かな
(左側) 大和屋利兵衛
施主 某

此等も曰くがあり相だ。此等大鹽一家の墓を始め、西南隅の一角にある墓石の多くが、近く無縁墓に編入せらるゝとのことに特に茲に明記して、轉た浩歎の悲涙にくるゝのである。

扱北境に立てる無縁墓を一巡した。無縁の重層は四つまでもある。その西端の中に見るものに、「赤水府君之墓」がある。此は五島赤水夫妻のもので、此近くに、「獅殿少季墓」がある。碑文は、「赤水老人啓此哭之」として赤水の弟の撰である。

少季姓藤諱必賀字之祥號獅殿俗稱春代三郎父赤水先生母藏根氏乃余弟也文化初元甲子夏四月十一日病卒年二十五矣

こゝまでは讀めるが他の二面は見難い。

大仲休翁、大仲休圓、大仲延年、大仲休景などの墓名もある。

その東の層にある、「澧水竹原先生墓」(文政五年歲次壬午九月十九日没)「橋千春」などは名高く、外に「竹本十七太夫墓」

「浅水周備之墓」、「池田氏圖南秀戈墓」「池田氏安元之墓」「佐

用雄的墓」「泰誠馬場翁之墓」や

山城守忬

武右衛門壹

に小さな門があつて、その構内に入れば此にも南濱墓地の名残がある。

此域内に於て見るべきものは斜に北面して立てる六地藏の石佛である。

今若し此現地が古へそのまゝに他より移さず存するものとせば、墓地の地勢を推知するに大に參考となる。大分諸兄の教示を賜はりたい。

此六地藏石佛の各胴脇には、左の如く刻る

貞享四年丁卯七月二日

北野村夜念佛願主

その臺石や水盤などは新しく「西川永樂講」が修理して居る。その東西兩側面には左の文字があつた。

美の佐 八百新
鹽定伊 長久治
丹徳門 門庄久
花藤市 改安政二乙卯八月

尙此墓域内には、「馬場家一族」の墓がある。中にも「寛永十一年」とか「天和二年」などは年代の古いものである。其他「富島市右衛門」「紙屋利兵衛」などと富島家(瑞峯の系統)のもの、「羽間家累代之墓」もある。此馬場、富島、羽間などは現代も連綿としてつゞく此地方の名家である。

扱此南濱から西へ、東海道線の高架ガードを隔てた向ふには、源光寺の大きな臺が見ゆる。「源をたづねてぞ知る此寺の光あまねき法のともしび」として「圓光大師御舊蹟」とはなつては居るもの

、その古へは、行基菩薩が開創した平生寺と稱した大伽藍で、川邊郡の稻野長者と、當地の入江長者とが、八町四方の土地を獻じ、聖武天皇の勅定に依つて、天平十六年正月九日、工を起し、同十九年三月に落成したので、南濱の墓地は勿論その寺域内であつた。後頽廢して天治元年大原の良忍上人を中興として融通念佛宗としたが、更に承元の頃、法然上人が復興して、淨土宗となり、寺名も改まりて法燈をつよく。

此境内に、

東 七はか道 (西面) 東 源光寺道 (北面)

とした石標があるのは面白い。尙外に八角の石塔に六地藏を刻り、表に六字の名號、裏に「先祖歴代一切諸靈法界塔」、臺石には表門通道幅貳間長七十三軒

右永代寄之者也
天保四年癸巳仲春 池田屋喜兵衛



南濱墓地今も大坂三郷大火追善塔 (東田手)

本堂背後の墓地に至れば

興津豪魚丸墓 墓石には 小田氏

嘉永七年甲寅二月二十一日

興津豪魚丸は通稱小田昌右衛門で浪華丸狐狂歌師であつて、初代蝙蝠軒魚丸の後を繼ぎ、蝙蝠軒殿斗丸と稱し蝙蝠連を統率し、後に興津豪魚丸と改めた人で住所は南江戸堀に住んで居て書林であつた、弘化二年の摺物によると其連名に如星堂幾久成、眞垣亭菊友、遊蝶舎夢輔、眞金堂吉備丸等十四五人もある。

源光寺の南には、有名な鬼子母神の慶住院の墓が、北大阪線の向ふに見ゆるのである。

濱火、濱村の墓所より、雨夜に出る火魂也、所傳云、昔此處に貪欲の土民在て、常に此墓所に隠忍で、墻卒都婆を破り、或は火葬の燒草を盜採て、己が甕に燒て、神を滅し、終に罰を請て、其罪を啗死するの猛火也。中頃當所源光寺の僧惠觀、融通大念佛一千日の執行、爲之罪を謝するの後、火炎勢薄く出る事邂逅なり。「攝陽群談」

現今大阪市營火葬場は、阿部野、長柄、小林町、春日出、寝屋川、住吉、平野、佃、他數ヶ所で、此等一年の火葬件數は、約四萬四五千もあるとのことだ。「昭和九、四、十一。大阪朝日、新聞附一丁目記載」

「大阪訪碑録、近畿墓跡考、大阪金石文等に掲載するもの、碑文は茲に重掲を避く。」

葭原と長柄

川崎 紫 明

交通整理で、兵士と警官が一波瀾を卷起したことがある。天六の新京阪前から、北向ひの大坂北市民館とその後方へかけて、明治中年頃迄も、墓原があつたと誰が想ふものぞ。

此墓原は天平の昔行基菩薩の開基した葭原の墓所で、所謂七墓の一つ、その東北方には有名な國分寺がある。

葭原の墓所は行基菩薩が開基と云ふ傳説だが、擴張されて著名になつたのは元和年中天満の町家に在つた墓を此所へ移轉してからであらうと思ふ。

「大阪濫觴書一件」元和五年の頃の通書いてある。

大坂市中所々に有之候阿波座村。三ツ寺村。上難波村。敷津村。渡邊村。津村。の墓所は以來下難波村墓所へ千日寺聖ともに壹ヶ所に寄之右五ヶ所の墓は、取拂候様被仰付千日の聖六坊と相成候事但し上町の分は小橋村。天満の町家は葭原村。濱村。梅田村墓所に被仰付

往古はその名の葭原から察して、葭や葦の簇生した水郷であつたらう。埋田を梅田と改めたやうに、葭原を吉原とも記される。されば市民館の背後の空地(市民館の建つ迄は勿論こゝ數年前迄も尙墓石が残存したのを覺える)には板圍ひはすれどもその少し